

編集後記：ここ数年、北極に関わるエアロゾルの研究に携わっており、昨年の夏（2017年6月）にグリーンランド北西部のカナック（Qaanaaq, ここでのグリーンランドの地名の日本語表記は、研究者の間で使用されているものを用いています）を訪れる機会がありました。日本から、まずコペンハーゲンに行き、そこからエア・グリーンランドの真っ赤な機体の飛行機に乗り、カンゲルサック（Kangerlussuaq）、イルリサット（Ilulissat）と乗り継ぎ、カナックに到着しました。到着日（6月上旬）には雪が舞っていました。

グリーンランドの景色はとても印象的でした。カナック村の前面の海は厚い海水で覆われており、晴れた日には、海水や雪の輝きと青空のコントラストがとても美しかったです。氷帽上でも、辺り一面に広がる氷河上の雪と澄んだ青空がとてもキレイでした。逆に天気が悪いと、全体が暗くなり灰色に見えます。雲の高度が低いことも印象的でした。木がなく、岩だらけの風景も特徴的でした。カナックでは犬ぞりを使用する村人がおり、海氷上には多くの犬がいました。白夜の影響なのか（?）、子供達が夜遅くまで外で遊んでいたことも印象的でした。村にはバーが1つだけあり、週末にのみ営業していました。ビールが品切れだったことにも驚きました（村全体で、炭酸水やチョコレートなども品切れ状態だった記憶があります）。

北極出張は予定通りにはいかないという話を聞いていましたが、6月下旬になり帰国しようとしたとこ

ろ、カナックから脱出できない状況におちいりました。天候不良や航空機の技術的問題により、カナック～イルリサット便が5回連続でキャンセルになり、10日間カナックで待たされることになりました。一方のイルリサットでは大混雑になり（ホテルが不足し、体育館に宿泊する乗客もいたそうです）、カナックに帰れない乗客が途方に暮れる様子が現地の新聞に掲載されました。カナックから脱出できた後も、さらにイルリサット発のフライトも降雪によりキャンセルになり、合計6回のキャンセルを経て、帰国しました。天候不良の最大の要因は濃霧でした。滞在中は、カナック前面の海（3方が陸に囲まれている）は海水で覆われていましたが、西側の外洋では海水面が現れていたため、海側から風が吹くと、水蒸気が海氷上で効率的に冷やされ、霧が発生しやすい状況が継続していたようでした。

エアロゾル粒子は太陽放射を散乱・吸収するとともに、雲凝結核として働き、雲や霧を形成します。このため、エアロゾルは気象分野と密接に関わるだけでなく、今回の執筆のように交通機関へ及ぼす影響も大きいです。とくに、エアロゾルが北極気候に及ぼす影響に関しては未解明な問題が多く、現在活発な研究が行われています。皆様にも研究交流の場として「天気」を活用していただけると幸いです。

（大島 長）